

Lecture

ピラミッド型構造物で発見された特異な現象の発生要件 (Necessary Conditions for An Anomalous Phenomenon Discovered with A Pyramidal Structure)

高木治¹、坂本政道²、世一秀雄¹、小久保秀之¹、河野貴美子¹、山本幹男¹
(Osamu TAKAGI, Masamichi SAKAMOTO, Hideo YOICHI, Hideyuki KOKUBO,
Kimiko KAWANO, Mikio YAMAMOTO)

¹ 国際総合研究機構(IRI) 情報研究センター (日本, 千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本, 千葉)

要旨: ピラミッド効果を科学的に究明し応用する、これが我々の目的である。2013年、我々はピラミッド型構造物 (pyramidal structure: PS) の頂点に置かれた生体センサ (キュウリ切片) に対する非接触効果を、ガス測定法による厳密な実験と解析によって非常に高い統計精度で実証した。2015年、瞑想後のピラミッド型構造物内に瞑想者が居なくなった状態で、非接触効果を十数日間という非常に長期にわたって検出した。この実験結果から“ピラミッド型構造物が関与した遅延を伴う特異な非接触効果”という全く新しい現象の存在を実証した。2016年、ピラミッド型構造物で発見された特異な現象に関する発生要件を明らかにした。瞑想者と PS の実験条件を変化させておこなった検証実験の結果、瞑想期間では瞑想者の有無、PS の有無に関わらず、非接触効果が検出できないことを実証した。さらに瞑想期間に PS 内に瞑想者が居たという条件の時にのみ、瞑想期間後に非接触効果が有意に検出されることを実証した。この研究成果は、2015年に提案した非接触効果の発現に関するピラミッド効果の仮説の正当性をより高める結果となった。

キーワード: 瞑想者、ピラミッド型構造物、非接触効果、遅延効果、生体センサ、キュウリ、ガス

1. はじめに

2007年10月から国際総合研究機構 (IRI) (理事長 山本幹男) と(株)アクアヴィジョン・アカデミー (代表取締役 坂本政道) による共同研究プロジェクト、“坂本ハイパーテックプロジェクト (Sakamoto Hyper-tech Project: 通称 SHyP)”が開始された。プロジェクト研究メンバーは6名である (Fig. 1)。

SHyPの研究テーマは、“ピラミッド効果についての科学的な研究”である。この研究の背景として、一般的にピラミッドには未知のパワーが存在していると言われていたが、未だ科学的な研究がほとんどなされていないこと、またメンバーの一人である坂本政道に対してバシヤールから、チャネリングによるメッセージがあり、ピラミッドはパワー増幅器であり、人間の意識を覚醒させる機能をもつことが教示されたり。そして、SHyPの研究目的は、PSの持つ電磁効果や生体と意識への影響を科学的に研究し、最終的には研究成果を活かした製品の実用化である。こ

れまで (2016年7月時点) の研究成果として、学術論文誌に3編が掲載された²⁻⁴⁾。これ等の研究によって、我々はピラミッド型構造物の未知なる機能の一端を科学的に厳密な実験と検証により実証した。また、ピラミッド効果に関する学術的な研究において、統計的に高い有意性のある実験データを示した研究は、我々のグループ以外では皆無である。

2. 研究成果

これまでのSHyPにおける研究成果は、
(i) 非接触効果の存在を実証²⁾
(ii) 非接触効果の特徴である遅延効果の発見³⁾
(iii) 非接触効果の発生要件の特定⁴⁾
の3点である。

ここでいう非接触効果とは、PSの中で瞑想者が瞑想した場合、PS頂点に設置した生体センサのガス生成反応に影響を与える効果である。PSはアルミニウム管の骨格とポリスチレン板の面でできており、表面はフラクタル図形によって覆われている (Fig. 2)。瞑想者はヘミシンク歴23年の坂本政道で、PS頂点

高木治 263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 40A.

電話: 043-255-5481, FAX: 043-255-5481

E-mail: takagi@a-iri.org



Fig. 1 SHyPの研究メンバー



Fig. 2 ピラミッド型構造物



Fig. 3 瞑想状態

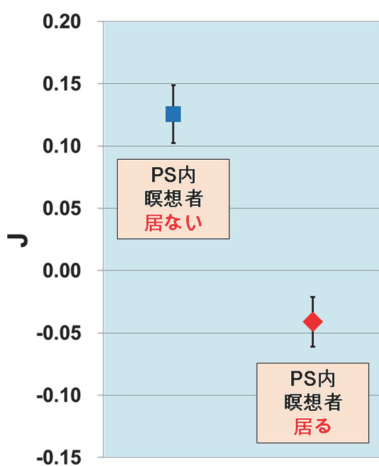


Fig. 4 瞑想者の有無によるJ値の比較

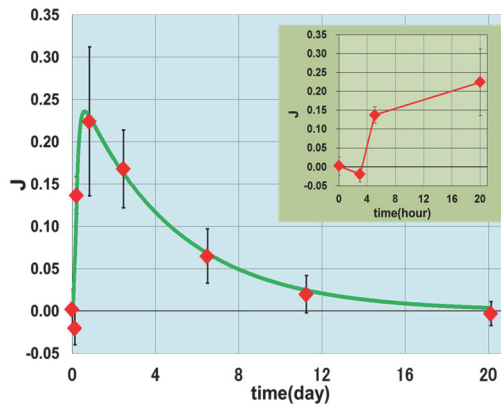


Fig. 5 非接触効果の遅延現象

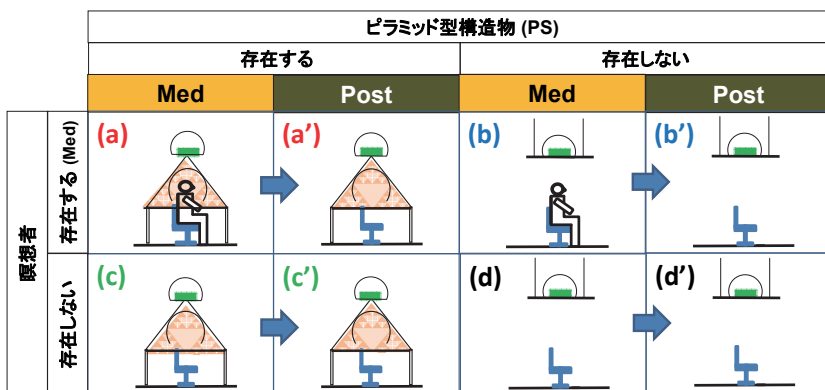


Fig. 6 特異な現象の発生要件を特定する検証実験の実験パターン

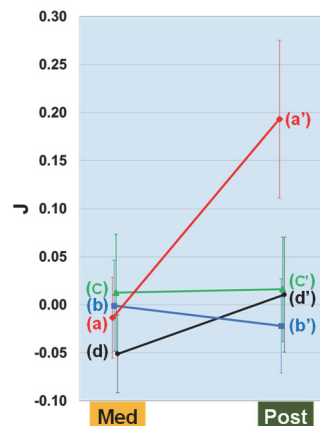


Fig. 7 検証実験の結果

の生体センサ(食用キュウリ切片)には直接触れず、意識を生体センサに向けずに瞑想した (Fig. 3)。1回の瞑想時間は30分である。

非接触効果の大きさの指標として、生体センサから放出されるガス濃度(2-ヘキサノール)から計算されるJ値を採用した⁵⁾。生体センサを使用して非接触効果を検出する測定法は、IRIで開発され、これまでにヒーラーによる非接触効果の検出やヒーラーの周囲に分布している生体場の検出等に成功している⁶⁻⁸⁾。

研究成果(i)に関して、瞑想者による非接触効果の存在は、Fig. 4のPS内に瞑想者が居る時と居ない時とを比較し、J値が異なることによって実証した。この時、生体センサから放出されるガス濃度の差は平均して20%あり、この結果が偶然に発生する確率は100億分の1程度のため、ほぼ確実に瞑想者が非接触で生体センサに影響を及ぼしていると考えられる。発表論文²⁾では、PS内に瞑想者が居ない時のJ値をゼロ点補正した図を用いたが、Fig. 4では、これ以降の図と同様の較正J値を用いた。

研究成果(ii)に関して、非接触効果の時間変化は、Fig. 5に示したように、瞑想後J値が増加し、約20時間後にピークとなり、その後指数関数的に減少した。約20日間の長期にわたる非接触効果の変化を、新しい現象として、“ピラミッド型構造物が関与した遅延を伴う特異な非接触効果”と呼んでいる。図中の曲線は、非接触効果の遅延現象を制御理論の過渡応答に対応させた場合の理論曲線であり、非常に良く実験結果を近似している。

研究成果(iii)に関して、非接触効果が発生する要件として、瞑想者がいれば十分なのか?ピラミッドは本当に必要なのか?という疑問がわく。そこで瞑想者無しのブランク実験やピラミッド無しの瞑想実験等の検証実験を行った。実験パターンは4通りあるが(Fig. 6)、実験の結果(Fig. 7)、瞑想期間(meditation period: Med)で瞑想者とピラミッドの両方がそろっているときしか、瞑想期間後(post-meditation period: Post)で効果を検出できないことが確認された。すなわち、ピラミッド単体、あるいは瞑想者単独ではこの現象(Fig. 5の時間変化)は起こらないのである。

3. まとめ

最新の研究成果として、非接触効果の発生要件を特定した⁴⁾。検証実験をおこなった直接的な動機は、既報論文^{2,3)}の、非接触効果は瞑想者がPS内に居る時に検出されず、瞑想者がPS内に居ない瞑想後に検出されたという結果の真相を解明する必要性を感じ

じたためである。なぜならPSを使用した瞑想実験の初期段階では、“非接触効果は瞑想者がリアルタイムに直接生体センサに影響を与える”という予想をしていたからである。しかし実験の結果、予想は完全に覆された。そこで我々は、PS内の瞑想者による非接触効果の発現に関する、ピラミッド効果の仮説を提案した³⁾。その仮説とは、“瞑想者は周囲に特異な作用を及ぼしているが、その作用は生体センサに対して直接影響を及ぼさない。瞑想者による特異な作用は、ピラミッド型構造物によって変換され、変換された作用が生体センサに影響を与える。”というものである。そして、検証実験によって、非接触効果の発生要件を特定するだけでなく、ピラミッド効果の仮説の正当性を高める結果をも得ることができた。

これまでの研究成果によって、SHyPはピラミッド構造物が持つ未知なる機能の一部を解明した。それは、ピラミッド型構造物が一種の「エネルギー変換装置」であり、PS内の瞑想者による作用(瞑想エネルギー)を別の作用(PSエネルギー)に変換するものである。瞑想エネルギーやPSエネルギーは、現代科学においては未知なるエネルギーではあるが、生体センサを使用した実験によって明らかに存在すると考えられる。

今後の研究によって、未知なるエネルギーに関する科学的理解が進み、その応用分野が広がる可能性がある。

参考文献

- 1) ダリル・アンカ、坂本政道：バシヤール×坂本政道人類、その起源と未来。大空夢湧子 訳、東京：ヴォイス、2009。ISBN-10: 4899762356。
- 2) Takagi O., Sakamoto M., Kokubo H., Yoichi H., Kawano K., Yamamoto M.: Meditator's non-contact effect on cucumbers. *International Journal of Physical Sciences*, **8**(15): 647-651, 2013. Doi: 10.5897/IJPS2012.3800
- 3) Takagi O., Sakamoto M., Yoichi H., Kokubo H., Kawano K., Yamamoto M.: Discovery of an anomalous non-contact effect with a pyramidal structure. *International Journal of Sciences*, **4**(5), 42-51, 2015. Doi: 10.18483/ijSci.714
- 4) Takagi O., Sakamoto M., Yoichi H., Kokubo H., Kawano K., Yamamoto M.: An unknown force awakened by a pyramidal structure. *International Journal of Sciences*, **5**(6): 45-56, 2016. Doi:10.18483/ijSci.1038
- 5) Kokubo H., Takagi O., Yamamoto M.: Development of a gas measurement method with cucumber as a biosensor. *Journal of International Society of Life Information Science*, **27**(2): 200-213, 2009.

- 6) Kokubo H., Yamamoto M.: Controlled healing power and ways of non-contact healing. *Journal of International Society of Life Information Science*, **27**(1): 90-105, 2009.
- 7) Kokubo H., Takagi O., Koyama S. & Yamamoto M.: Discussion of an approximated equation for special distribution of controlled healing power around a human body. *Journal of International Society of Life Information Science*, **29**(1): 23-34, 2011.
- 8) Kokubo H.: *Ki or Psi - Anomalous Remote Effects of Mind-Body System*. New York: Nova Science Publishers, Inc., 2015. ISBN-10: 1634829549.